

## ブラームスの3番

統計課・普及指導グループ

主事 大友直樹



自分は甚だ無趣味な人間である。ただ、好きな音楽を聴いているときは時間の経つのも忘れてしまう。

ここ数年はクラシック音楽を耳にすることが多い。誰にでも<sup>ひいき</sup>の作曲家の一人や二人はいるものだ。バッハ、モーツアルト、ベートーヴェン、ブルックナー、マーラー……自分のお気に入りはブラームスである。

ブラームスの音楽は憂いを帯びた哀愁感たっぷりのものが多い。洋画の一場面——場末の酒場で一人たたずむ男。酒を飲み終え、トレンチコートを身に纏う。外は霧雨、冷たい風が肌を刺す——このような情景が想像される音楽なのである。

ブラームスの音楽にモーツアルトのような明るさはみられない。モーツアルトの音楽の素晴らしいところは誰もが認めるところだ。フルートとハープとのための協奏曲の流麗なる調べはまさに天使の音楽を思わせる。他方ブラームスの曲には残念ながら華やかさは欠けがちだ。だが、その一音一音には重み、深みがあり、人生そのものが凝縮され、投影されていると勝手に解釈している。

ブラームスはその生涯に4つの交響曲を残している。この4曲はいずれも水準の高いもので、世界中で最も演奏される機会の多い楽曲として挙げられよう。第1交響曲はブラームスの作品の中でも一番耳にすることの多い、人気の高い曲である。第4交響曲は古典的様式が隨所にみられ、ブラームスの最高傑作と評価されることも多い。しかし最も魅力を感じるのは第3交響曲、ブラームスの「英雄交響曲」と呼ばれるものである。

ブラームスの3番を初めて全曲を通して聴いたのはクレンペラー指揮フィルハーモニア管弦楽団演奏のCDであった。クレンペラーとフィルハーモニア管弦楽団との逸話——楽団が財政的危機に陥ったとき、指揮者であったクレンペラーが「オーケストラと運命をともにする」と発言した——この浪花節にちょっと心を動かされ、迷わずCDを購入したわけである。

その当時、将来の進路の決定に悩んでいたこともあり、また感傷的になっていたこともあるってか強く胸を打たれたのを覚えている。憂愁、寂寥感ばかりが強烈に頭に残っていた。

ところが昨年ハイティンク指揮ボストン交響楽団演奏の第3交響曲を聴いたとき、この曲に対する印象は一変することになる。今までブラームスの曲は哀切の念に満ちたものと認識していたのだが、第4楽章に至ってその音楽の本質は情熱にあるのではないかとふと感じたのである。

ブラームスは自身の燃えたぎるような情熱の炎をあえて表出せず、理性という名のオブラーントで包もうとしたのではないか、しかし結局はそれができなかったのではという疑問が生じたのだ。

ヴァイオリン協奏曲の第3楽章にも同様のことと言えるのではなかろうか。人一倍慎重であったブラームスは自分の感情をコントロールしようしつつも、結果的には感情に屈したのではないかという念に駆られてしまう。

情熱を失いかけていた自分に第3交響曲は十分過ぎるほどの勇気を与えてくれた。ブラームスの音楽はかけがえのないものとなっている。

この資料は、平成8年2月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用下さい。

行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111(内線 2238・2239)

# 経済動向

## 国内の動き

### ●個人消費、景気牽引まだ力不足

総務庁の発表による95年の家計調査報告(速報)によると、全世帯の月平均消費支出額が32万9612円になり、前年より名目で1.4%減、物価変動の影響を除いた実質は1.1%減になった。名目は2年連続、実質は3年連続のマイナスで、ともに現行方式で調査を始めた1963年以降初めて。

景気が緩やかな回復軌道に戻ってきたなかで、総務庁は「消費は全体として弱い動きが続いている」とみている。

### ●1000万円以上の定期預金、減少傾向鮮明

日銀の経済統計月報によると、1000万円以上の定期預金の残高は95年11月末に前年同月比1.5%減となり、3ヶ月連続で減少した。減少幅は9月末の0.1%減から拡大している。逆に300万円未満の定期預金は大幅に増えており、金融関係者の間では「預金者が金融機関の経営破綻を意識して小口に分散している」との見方が強まっている。

日銀は1000万円以上の定期預金の減少について「預金者

### ●急増する若年失業

昨年の平均失業率は3.2%と過去最悪で「失業200万人時代」に突入したが、とりわけ若者が深刻で、20代の失業者は73万人にも上る。4年生大学卒に当たる22歳人口は91年頃から急増、これにバブル崩壊後の不況が重なった結果、年齢階層15—24歳の失業率は年々全体を上回る水準で上昇、95年には6.1%と過去最高を記録した。

95年は大震災、サリン事件などの影響で消費者心理が萎縮、外食費などサービスへの支出を絞る動きが強まった。

可処分所得のうち実際に消費に回した金額の割合を示す平均消費性向は前年より0.9ポイント下がって72.5%。バブル崩壊後、消費性向は低下傾向が続いている、消費者心理の改善の遅れを裏付けている。

(2月27日付 日経)

のうち個人は引き出しが便利な貯蓄預金に、法人は金利が有利なMMFなどに移し替えており、経営破綻の影響だけではない」としているが、預金の流失している第2地銀や信金の一部は「預金者がペイオフ(1000万円を限度とする預金保険の払い出し)を意識して自己防衛に走っている」と厳しく受けとめている。

(2月29日付 日経)

長期不況で企業は新卒だけでなく中途採用も減らしている状況にあり、学校を卒業しても就職できない人、転職しようとして仕事が見つからない人が多い。大学・短大卒の採用者数は、バブル景気がはじけた後の92年度をピークに減少。就職できていない学卒の若者が、昨年末でなお6万人いる。(2月1日付 茨城)

## 県内の動き

### ●最低資本金24%が未達成

県内の企業で商法改正による最低資本金(株式会社1千円以上、有限会社300万円以上)の達成が遅れている。水戸地方法務局のまとめでは2月5日現在、県内の株式会社のうち24.5%に当たる4837社と有限会社の23.1%に当たる7190社が達成していない。

未達成企業のうち「10—15%は実体がなかったり休眠状態」のペーパーカンパニー。このほかの未達成の株式会社

は増資や有限会社への変更で乗り切ることになるが、有限会社に変わることに抵抗があったり、税金の問題などから最低資本金の基準達成をめらう企業もあるという。期限の3月末までに達成しないと解散公告を受け、銀行取引ができなくなるなど経営に大きな影響が出るため、同局では早めの相談を呼びかけている。

(2月6日付 日経)

### ●県、ベンチャー企業支援へ財団設立

茨城県は県内のベンチャー企業支援を目的に県ベンチャー企業支援財団(仮称)を設立する。新規成長企業に対して最高7000万円の無担保融資をするほか、民間の投資会社が社債を引き受ける際に債務保証する。資金調達の難しさが成長の障害とされるベンチャー企業を支え、新産業を育成する。

財団の基金規模は5億円の見通し。県内金融機関に原資を委託し、企業には金融機関が融資する。常陽産業研究所や学識経験者、経営コンサルタントなどで構成する県ベンチャー企業審査会の技術評価などを参考に、中小企業創造活動促進法で認定された比較的年齢の若い企業を選定する。

(2月9日付 日経)